

JSPSボン研究連絡センター 2010年度第4四半期活動報告 (2011年1月～3月)

< 目次 >

1 2011年1～3月の主な活動	…p 1
①ボン大学 Harald Meyer 教授を訪問	
②第7回日独コロキウム開催	
③小平センター長が DAAD 写真展“Japanese Rooms”開会式で挨拶	
④その他の広報活動	
2 会議、イベントへの出席、当センターへの来訪者等一覧	…p 5
3 2011年4月以降の予定	…p 6
4 対応機関、関係機関の幹部交替	…p 6
5 対応機関等からの地震のお見舞い	…p 6
6 JSPS ボン研究連絡センターからのご連絡	…p 7
7 センター長雑感	…p 7

1 2011年1～3月の主な活動

①ボン大学 Harald Meyer 教授を訪問

日時: 2011年1月21日

場所: ボン大学(ボン市)

2011年1月6日付けの読売新聞に、幕末から戦前にかけての1,000点超の日本の写真がドイツで見つかったという記事が掲載されたが、写真を保管しているボン大学日本・韓国学専攻 Harald Meyer 教授の研究室を、小平センター長、中川副センター長、Schulze 職員が訪問した。これらの写真は、東京大学 馬場章教授が科学研究費補助金による研究の一環で調査していたものである。写真群は、ベルリン日本研究所長などを務めたフリードリヒ・トラウツが収集したと推定されている。

Harald Meyer 教授はボン大学の日本学の教授であることから、これまで時々情報交換をしたり、当センター活動報告会「JSPS Abend」等の行事にも出席していただいている。今回の訪問を通して、Meyer 教授と同教授研究室の湯川史郎博士に9月に開催予定の「JSPS Abend」において、これらの写真についての学術講演をしていただくことについて了解が得られた。

②第7回日独コロキウム「法を超える規制はありうるか?：複雑性、不確実性、リスクのもとにおける社会規制の新しいアプローチを探る」開催

日時: 2月16日～2月19日

場所: ミュンスター大学(ミュンスター市)

JSPS ボン研究連絡センターでは毎年冬に日独学術コロキウムを開催しており、今回で7回目となる。コロキウムは若手研究者を主な参加者とし、少人数で研究発表と集中的な討論を行う小研究会であり、相互の理解を深め、今後の研究協力のきっかけを提供することを目的としている。

今回のコロキウムは、JSPS ボン研究連絡センターとミュンスター大学との共催、独日法律家協会及びミュンスター市のナノテク企業 Brillux 社の後援の下に開催された。ドイツ側はミュンスター大学情報通信・メディア法研究所 Thomas Hoeren 教授が、日本側は九州大学法学研究員 河野俊行教授がそれぞれコーディネーター役を務め、ドイツ側9名、日本側7名の研究者が参加し、ミュンスター大学の博士課程在籍者15名程度がオブザーバーとして参加した。

16日夜に顔合わせ会を行い、17、18日にミュンスター大学内会議室で集中的に発表及び討論を行った。会は大きく5つのセッションに分けて行われ、近年の急激な科学技術の発展や社会の変容に伴って、従来の法律による社会制御に多くの問題が生じてきているが、第1セッションでは不確実性があるリスクの大きな問題への対応につき法学、社会学、哲学の立場から理論的な検討が報告された。第2セッションでは実際問題に立ち入り、文化面での制御問題を、第3セッションでは生活面での制御を、第4セッションでは情報・知財面での制御を、第5セッションでは経済面での制御が論じられた。際立った特徴は、採択しようとする制御につき、その制御が一国内に閉じてでは不可能な場合、長期に亘って正当性を保証することが不可能な場合、つまり、空間的、時間的に異質な領域にまたがる場合が問題となり、その際の法的対応に限界が見られることである。インターネットによるグローバルな知財の流れや物流、金融によって生じるトラブル、リスク管理問題の典型である原子力問題、富の分配に関する社会保障問題、人の流れに伴う多民族国家問題、などが現実例の一部として挙げられた。国際法、時限法、行政指導、NGOの活用など、さまざまな柔軟な法制度の可能性が論じられたが、その解決は今後の自由民主世界にとっての大きな課題であり、国際的な場で研究を進める必要がある、との共通認識で議論は閉じられた。

今回のコロキウムは「日独交流150周年」認定行事として開催され、17日の夜は、30年戦争終結のウェストファリア条約にゆかりのある「フリーデンスザール(Friedenssaal)」にて、Markus Lewe ミュンスター市長と在デュッセルドルフ日本国総領事館 小井沼紀芳総領事をお迎えし、公式レセプションを開催した。Lewe市長からは「tolerance through dialogue(対話を通した相手に対する寛容さ)」が大切といった趣旨の学術交流の重要性にも言及した挨拶と、コロキウムをミュンスター市で開催したことに対する謝辞をいただき、小井沼総領事からは日独学術交流に対する激励の言葉をいただいた。

19日は独日法律家協会及び Brillux 社の厚意により、ミュンスター市のスタディツアーを行った。

< 関連URL >

<http://www.uni-muenster.de/Rektorat/exec/upm.php?rubrik=Alle&neu=0&monat=201102&nummer=13852>

<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programs/english/japan-germany2011/index-2.html>



中央 河野教授、一番右 Hoeren 教授



河野教授による発表



会場の様子



Friedensaal での公式レセプション(左は Lewe 市長による挨拶)

③小平センター長が DAAD 写真展“Japanese Rooms”開会式で挨拶

日時: 3月24日

場所: 学術センター(ボン市)

DAADは、30年以上も前から東京事務所を設置し日本と密接な関係にあるが、DAADの日独交流150周年関連行事のオープニングイベントとして、写真展“Japanese Rooms“を3月24日から4月28日までボン市にある学術センターで開催している。展示されているのは、元DAAD奨学生で、現在芸術家、デザイナーとして活動しているSven Ingmar Thies氏が、東京、ベルリン、上海、ニューヨーク、ウィーンで撮影した82の日本人が日常生活を送っている部屋の写真の一部で、日本人でも簡単に見ることができないものである。

3月24日に学術センターにて開会式が行われ、学術センターのHeinz Rüdiger Grunewald事務局長、DAADのDorothea Rüländ事務総長に続き、小平センター長が開会の挨拶をした。小平センター長はまず、東日本大震災に対する深い悲しみと、ドイツをはじめ各国からの支援に対して感謝の意を表明し、日本の厳しい自然環境の下で日本人の勇敢さ、冷静さが形成され、自然に対して畏敬の念を持って生きることができると説明した。続いてこの展示会が現代日本に対する新しい理解につながることを祈念した。

その後、Sven Ingmar Thies氏本人による写真の紹介が行われた。

この写真展は、2011年10月17日から10月23日まで、東京のOAG-Haus Tokioでも開催される。

< 関連URL > <http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/16738.de.html>



開会式の様子



挨拶をする小平センター長



展示会場の様子(左は Sven Ingmar Thies 氏)

④その他の広報活動

“The 9th Göttingen Meeting of the German Neuroscience Society“に資料参加。

< 関連 URL > <http://www.nwg-goettingen.de/2011/>

2 会議、イベントへの出席、当センターへの来客等一覧

(ゴシック体は「1 2011年1～3月主な活動」に記載したもの)

【1月】

- 01月12日(水) 中川副センター長が平成23年度在ドイツ日本国大使館新年名刺交換会出席(於ベルリン)
- 01月21日(金) **小平センター長、中川副センター長、Schulze 職員がボン大学 Harald Meyer 教授、湯川史郎博士を訪問(於ボン)…1-①**
小平センター長と中川副センター長がボン独日協会主催日独交流150周年記念レセプションに出席(於ボン)
- 01月24日(月) 中川副センター長と Albers 職員がハイデルベルク大学を訪問、2011年12月のコロキウムについて打ち合わせ(於ハイデルベルク)
- 01月27日(木) 中川副センター長と Albers 職員が DAAD を訪問、2011年5月のシンポジウムについて打ち合わせ(於ボン)
- 01月31日(水) 小平センター長が国連大学副学長就任レセプション出席(於ボン)

【2月】

- 02月15日(火) 小平センター長がフンボルト財団フェロー審査会に出席(於ボン)
- 02月16日(水) **第7回日独コロキウム開催(於ミュンスター、～2月19日)…1-②**
- 02月22日(火) ケルン文化会館 上田浩二館長が来所

【3月】

- 03月08日(水) 中川副センター長が三菱商事内東京工業大学デュッセルドルフ事務所を訪問(於デュッセルドルフ)
中川副センター長が国際交流基金元フェローネットワークミーティングに出席(於デュッセルドルフ)
- 03月10日(木) JSPS BRIDGE Fellowship Program 審査会を開催
- 03月15日(火) 中川副センター長、Schulze 職員、Albers 職員が10月に行われるドイツ統一20周年行事に関するボン市主催の打ち合わせに出席(於ボン)
- 03月24日(木) **小平センター長、中川副センター長、Schulze 職員、佐々木国際協力員が DAAD 主催写真展“Japanese Rooms”開会式に出席(於ボン)…1-③**
- 03月25日(金) “The 9th Göttingen Meeting of the German Neuroscience Society”に資料参加…1-④
- 03月26日(土) 小平センター長、中川副センター長、Albers 職員が JSPS ドイツ同窓会と打ち合わせ(於ボン)
- 03月29日(火) 齋藤秀人国際協力員、佐々木貴大国際協力員が帰国
- 03月30日(水) ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京 Christian Rudelt 氏が来所

○その他来訪者数：8件(18名)

3 2011年4月以降の予定

- 05月06日(金) JSPS サマープログラムプレオリテーション開催(於ボン)
- 05月20日(金) 日独交流150周年記念 日独シンポジウム2011開催(於ベルリン、～21日)
- 09月16日(金) JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会「JSPS Abend」開催
- 10月21日(金) 日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント開催(於フランクフルト)
- 12月01日(木) 第8回日独コロキウム開催(於ハイデルベルク、～3日)

4 対応機関等の幹部交替

①ドイツ学術交流会(DAAD)会長退任

DAADのSabine Kunst会長が2011年2月22日に退任しました。

Kunst氏はブランデンブルク州科学・研究・文化大臣に就任し、新会長は2011年夏に選出されることになり、それまでは副会長のMax Huber氏が会長代行を務めます。

<関連URL> <http://www.daad.de/portrait/struktur/praesident/16582.de.html>
<http://tokyo.daad.de/wp/lang/ja/> (日本語)

②ドイツ学術審議会(Wissenschaftsrat(WR))の会長交代

高等教育政策や研究政策について連邦政府及び州政府に助言を行う審議会であるドイツ学術審議会(Wissenschaftsrat(WR))は、前会長のドイツ文学者Peter Strohschneider氏(ミュンヘン大学教授)の後任として、2011年1月28日にアーヘン工科大学の工学研究者であるWolfgang Marquardt氏(54歳)を選出しました。Marquardt氏はアーヘン工科大学でプロセス工学の講座を担当しています。

<関連URL> <http://www.wissenschaftsrat.de/ueber-uns/vorsitzender-und-generalsekretaer/>

③国際交流基金ケルン文化会館長交代

2011年3月に上田浩二氏が退任され、4月より手塚和彰氏(青山学院大学 法学部教授)が新館長に就任されます。JSPS ボンセンターは、上田前館長には各種共催イベント開催や日常の学術情報交換等において大変お世話になりました。上田前館長は4月より独協大学教授とされます。

5 対応機関等からの地震のお見舞い

東日本大震災に際して、次の対応機関等から当センター宛てにお見舞いのお手紙をいただきました。

- ・アレクサンダー・フォン・フンボルト財団(AvH) Enno Aufderheide 事務総長
- ・ドイツ学術交流会(DAAD) Max Huber 会長代行



- ・ドイツ研究協会(DFG) Matthias Kleiner 会長(小野理事長宛て)
- ・ケルン大学 Axel Freimuth 学長、Michel Bollig 副学長

また、JSPSドイツ同窓会では独自に東日本大震災に対する募金活動を行っています。

<関連 URL> <http://www.jsps-club.de/index.php?id=318>

6 JSPS ボン研究連絡センターからのご連絡

2010年4月1日より当センターでJSPS国際協力員として勤務された齋藤秀人さん(横浜国立大学職員)と佐々木貴大さん(東京工業大学職員)が2011年3月末に帰国されました。2011年4月からは、お二人ともそれぞれの大学の留学生担当部署にて勤務されることになっています。JSPSでの経験を生かして今後活躍されることを期待しています。

また、2011年4月1日からは、国際協力員として新たに坂本真梨子さん(東京農工大学職員)が当センターでの勤務を開始しました。

7 センター長雑感

年度末に向けての追い込みに入った途端に、地震・津波・原発事故の大波に吞まれてしまった。ドイツのメディアが、あたかも日本全体が壊滅し、放射能汚染がヨーロッパまで広がるかのような報道を繰り返す中で、慰問への応答、日独研究者からの問い合わせへの対応、各種機会を使っての正しいメッセージの発信努力を続けている内に、H22年度が終わった。「福島効果」も手伝って、ドイツは原子力政策を見直し、新たなエネルギーによる持続的社会の構築に向けて一歩を踏み出そうとしている。厳しい、しかし豊かな、自然環境の中に生きる日本人皆が、力を合わせて助け合い復興に立ち向かう様子は、ドイツでも多くの人々の感動を呼び、我々にも勇気を与えてくれている。ボンに短い春が訪れ、日に日に花開き緑が茂って行く中で、この日独修好150周年の年が、「新たな日独協力元年」となるように努力したいと願っている。H22国際協力員のお二人、ご苦勞様でした。

小平桂一 2011.4.1

ぼんぼん時計第31号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49(0) 228-375050 Fax +49(0) 228-957777
www.jsps-bonn.de